



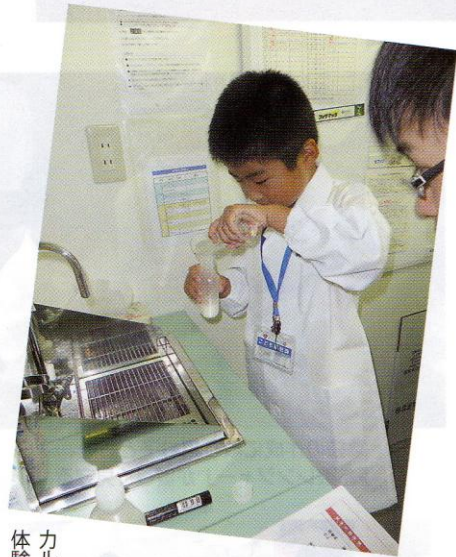
おかやま薬局山陽店の調剤室で、子どもたちに自己紹介する古野氏



分包機にラムネをセット



薬袋を作成する



カルピスを薄めて水剤の調製を体験した

お菓子使って模擬調剤

各店舗で180人以上が参加

おかやま薬局

一方、「子ども調剤体験」が県内に広がる先駆けとなったのは、オカイ・メデイカル・ファーマシーが展開するおかやま薬局山陽店(赤磐市)。当時、同店に勤務していた薬剤師の古野勝彦氏が、他県での実施事例を知り09年8月から開始した。「地域貢献の一つとして、子どもたちが喜んでくれたら楽しいだろう」と思ったという。

その準備段階で古野氏は、「親子漢方びっくり教室」に親子で参加した。「後に自己紹介したが、当時は緋田先生と面識はなかった。紙芝居を使う方法を、早速取り入れてもらった」と語る。

おかやま薬局での「子ども調剤体験」は小学生を対象に約1時間実施している。前半30分は、紙芝居を使ってクイズを出題しながら、「自分がもらった薬を友達にあげてはいけません」など薬の正しい知識や、薬剤師の仕事内容を説明する。

後半30分は各種調剤機器を使った調剤体験。ラムネをヒートから押し出して分包機にセットしたり、カルピスを水で薄めて水剤を調製したり、スポーツドリンクの粉末で散剤の調剤を体験してもらったりする。

09年は2回実施した。「参加した女の子から数日後に、「楽しかった。私も将来は薬剤師になりたい」と書いた手紙が来た。苦労したけれどやった甲斐があったと嬉しかった」と古野氏は振り返る。

10年は5回実施。古野氏が学校薬剤師に就任した小学校で案内文を配布してもらったところ、全校

生徒の1割、約30人の応募があり、急遽回数を増やしたという。

11年はおかやま薬局チェーン内に広がった。各店舗のスタッフが山陽店での調剤体験イベントを手伝い、経験を積んだことで拡大した。9月末までに6薬局が計20回開催し、参加児童総数は187人となった。

岡山市学薬が支援

「子ども調剤体験」は、岡山市学校薬剤師会(加藤章則会長)の支援を背景に、他の薬局にも広がっている。岡山市学薬は数年前から、薬と健康の週間などで調剤体験イベントを実施。そのスタッフを務めた薬剤師が、自分の薬局でも実施したいと考えたようになっている。

岡山市学薬は、古野氏を講師に講習会を開いてノウハウを伝えた。各薬局の体験イベント日程を共有化し、興味を示す薬剤師が他薬局に見学や手伝いに行けるようにした。また、子ども用白衣など必要な備品を揃えて貸し出した。

その結果、開催薬局数は10年度の6薬局から11年度(9月末現在)は13薬局に増えた。

実施薬局の情報交換会も10年から行っている。「他の薬局の取り組みを参考にしたり、取り入れたりしている。負けてはおれん、今度はこんな新しい試みをしようと思つ」と緋田氏。「この輪をさらに広げたい。岡山市学薬や私たちがはその目論みで」と話す。